

パスパ文字モンゴル語聖旨の初頭定型句の分ち書きについて

吉池孝一

—

パスパ文字によってつづられた語句や文章は何語を表記する場合でも通常一音節ごとに一まとめに示される。これが文字列の単位を示す唯一のものであり、これにより音節の切れ目は機械的に示されるけれども意味の切れ目は何ら明示されることはなく、読み手の解釈に委ねられることになる。しかしながら、『KOTONOHA』23号(「パスパ文字の翻字に関する覚書」)で言及したように、パスパ文字モンゴル語聖旨の初頭の3行においては、語と語の間に分ち書きともとれる多めの余白がみられる場合がある。そこで、音節の切れ目を「-」で、多めの余白を「-----」で示し、パスパ文字をローマ字に翻字すると以下ようになる。なお、例文および資料名は照那斯図 1991(『八思巴字和蒙古語文献 文献彙集』AA研)による。

型	1行目	moŋ-k' a-dêŋ-ri-yin-k' u-č' un-dur とこしえの天の力に
	2行目	yê-ke-su-ĵa-li-yin- · i-h · en-dur 大いなる威福の輝きの加護に
	3行目	q · an-----ĵar-liq-----ma-nu カアンの 聖旨 我らの

これは「薛禅皇帝牛年(1277~1289)聖旨(1)」の初頭3行の定型句である。3行目に分ち書きがみられる。これを 型とする。

他方次のようなものもある。

型	1行目	moŋ-k' a-----dêŋ-ri-yin-----k' u-č' un-dur とこしえの 天の 力に
	2行目	yê-ke-su-----ĵa-li-yin----- · i-h · en-dur 大いなる威福の 輝きの 加護に
	3行目	q · an-----ĵar-liq-----ma-nu カアンの 聖旨 我らの

これは「普顔篤皇帝虎年(1314)聖旨(2)」の初頭3行の定型句である。3行共に多めの余白を用いて分ち書きをしている。これを 型とする。これに類するものとして次のようなものもある。

型	1行目	moŋ-k' a-----dêŋ-ri-yin-----k' u-č' un-dur
	2行目	yê-ke-su-ĵa-li-yin---- · i-h · en-dur
	3行目	q · an-----ĵar-liq-----ma-nu

これは同じ皇帝の発行になる「普顔篤皇帝虎年(1314)聖旨(3)」の初頭3行の定型句である。2行目の1句と2句は連書され、この部分に限り、分ち書きはみられない。これを 型とする。なお、 型であるか、それとも 型とすべきか判断しかねるものもあり、そのような場合は括弧で説明を付し 型(or)のようにする。

さらには次のようなものもある。

型 1行目 moŋ-k' a-dêŋ-ri-yin-k' u-č' un-dur
2行目 yê-ke-su-ŋa-li-yin- · i-h · en-dur
3行目 q · an-ŋar-liq-ma-nu

これは「普顔篤皇帝虎年（1314）聖旨（1）」で、先に例を示した 型と同じ皇帝の発行に係わるものであるけれども分ち書きはみられない。これを 型とする。 型については 型との差異が明瞭でないものもある。あるいは拓本実物の見方によっては 型ではないかと疑念を持たれる場合もあろう。ここでは、明瞭な 型でないものは 型とするという立場より判断をしたことを申し添えておく。

二

以上、聖旨の状況を確認した。次に懿旨（皇后のもの）・令旨（諸王のもの）・法旨（帝師のもの）の初頭の3行を検討する。なお、内容は聖旨と異なる部分があるけれどもやはり定型句となっている。

まず、懿旨は以下のようである。

1行目 moŋ-k' a-dêŋ-ri-yin-k' u-č' un-dur
とこしえの天の力に
2行目 q · a-nu-su-dur
カアンの威福に
3行目 ɣoŋ-t' ay-yiv- · i-ŋi-ma-nu
皇太后の 懿旨 我らの

これは「答吉皇太后鶏年（1321）懿旨」の初頭3行である。分ち書きはない。 型と言えよう。

次は令旨である。

1行目 moŋ-k' a-dêŋ-ri-yin-k' u-č' un-dur
とこしえの天の力に
2行目 q · a-nu-su-dur
カアンの威福に
3行目 ---hay-šan-ɣūay-niŋ-'ūaŋ- · eu-ge-ma-nu
海山懷寧王の 令旨 我らの

これは「海山懷寧王蛇年（1305）令旨」の初頭3行である。3行目の行頭を一音節分下げて書き始めているけれども分ち書きはない。 型と言えよう。照那斯図（1991）によると、令旨は他に二つある。いずれも3行目の初めは固有名となっている。その内の一つは、ここには例示しなかったけれども、2行目の後ろに多めの余白をとりその後3行目の内容を続けて記すという体裁となっている。このようなものも 型に属すものとする。

次は法旨である。

1行目 q · a-nu-ŋar-li-qi-yar
カアンの聖旨による
2行目 ---di- ŧhi-ɣuŋ-ge-lo-gos-ɣal-caŋ-ban-caŋ-bu-fa-ŋi-ma-nu

帝師 公哥羅古思監藏班蔵トの 法旨 われらの

これは「帝師公哥羅古羅思監藏班蔵ト鶏年（1321）法旨」の初頭の2行である。2行目の行頭を一音節分下げて書き始めている。分ち書きは認められず、これも 型とすることができる。

三

最後に参考としてウイグル文字モンゴル語聖旨碑の初頭の状況を中村 淳・松川 節 1993（「新発見の蒙漢合璧少林寺聖旨碑」『内陸アジア言語の研究』, pp.1-92+8pls）により確認すると次のようになる。ローマ字翻字及び訳は上掲論文の成果を使用させていただいた。ウイグル文の語と語の間にとられる通常の余白は「-」で、多めの余白は「--- --」で記すことにする。

1. 少林長老福裕宛モンケ皇帝ウシ年（1253）聖旨

1行目 -----TWRWXT'Y-PWK'-XWR'XWL'

トゥルグタイ ブカは 二人して

2行目 MWNKK'-X'N-'M'N-YRLX-YY'R-Š'WLYM-C''NKL'W-T'-WYKWL'YW-'WYKDWK'Y

モンケ カンの口頭のおおせ(聖旨)によって少林長老に 言って 与えよ

3行目 P'-CYM'YY-TW-SY^マNPSY^マNK-N'R'-PWLX'N-'YLYP'-Y'WXWDWN

我らはお前を 都 僧省の 名と なして あらゆるジャウクドの

これは初頭の3行であるが定型句はみられない。また1行目初頭を大きく下げる他、パスパ文字モンゴル語聖旨のような多めの余白はみられない。余白について言えば 型に相当するけれども定型句が認められないわけであるからこのような例は除外する。

2. 少林長老福裕等宛クビライ皇帝トリ年（1261）聖旨

1行目 MWNKK'-TNKRY-YYN-KWYCWNDWR

とこしえの 天 の 力に

2行目 X'X'N-----YRLX-----M'MW

カアンなる おおせ(聖旨) 我らが

2行にわたる定型句がある。2行目に、パスパ字モンゴル語聖旨の3行目と同様の余白がとられている。 型に相当する。

3. 足庵浄肃宛クビライ皇帝タツ年（1268）聖旨

1行目 MWNKK'-TNKRY-YYN-KWYCWNDWR

とこしえの 天 の 力に

2行目 Y'K'-SWW-Y'LY-YYN-'YP'K'NDWR

大いなる威福の 輝きの 加護に

3行目 X'X'N-----YRLX-----M'MW

カアンなる おおせ(聖旨) 我らが

パスパ文字モンゴル語聖旨と同じ内容の定型句がある。上掲2の2行目と同様、本碑3行目「カアンなる おおせ(聖旨) 我らが」に多めの余白がみられる。 型に相当す

る。

四

以上、初頭定型句に係わる分ち書きの三つの型を確認した。すなわち、定型句3行の内、3行目のみ分ち書きする 型。定型句3行にわたって完全に分ち書きをする 型。

型に類するもので2行目の1・2句を連結する不完全なものを 型。分ち書きがまったく見られない 型である。次に、管見に及んだウイグル文字モンゴル語及びパスパ文字モンゴル語の聖旨・懿旨・令旨・法旨において、この三つの型がどのように現れるか確認する。ウイグル文字モンゴル語資料は前掲中村 淳・松川 節(1993)によった。パスパ文字モンゴル語資料は主に照那斯図(1991)により一部他の資料で補った。

ウイグル文字モンゴル語

- | | |
|-------------------------------|----|
| 1. 少林長老福裕等宛クビライ皇帝トリ年(1261) 聖旨 | 碑文 |
| 2. 足庵浄肃宛クビライ皇帝タツ年(1268) 聖旨 | 碑文 |

パスパ文字モンゴル語

- | | |
|----------------------------|----------|
| 1. 安西王忙哥刺鼠年(1276) 令旨 | 碑文 |
| 2. 薛禅皇帝牛年(1277~1289) 聖旨(1) | 碑文 |
| 3. 薛禅皇帝牛年(1277~1289) 聖旨(2) | (or) 原文 |
| 4. 薛禅皇帝牛年(1277~1289) 聖旨(3) | 碑文 |
| 5. 薛禅皇帝龍年(1280~1292) 聖旨 | 碑文 |
| 6. 完者篤皇帝牛年(1301) 聖旨 | 原文 |
| 7. 小薛大王兔年(1303) 令旨 | (?) 碑文 |

* 上は他と形式が異なるが と判断

- | | |
|--------------------------|--------|
| 8. 海山懷寧王蛇年(1305) 令旨 | 原文 |
| 9. 完者篤皇帝馬年(1306) 聖旨 | 碑文 |
| 10. 少林寺アムハルダ 鼠年(1312) 聖旨 | 碑文 |
| 11. 普顔篤皇帝虎年(1314) 聖旨(1) | 碑文 |
| 12. 普顔篤皇帝虎年(1314) 聖旨(2) | 碑文 |
| 13. 普顔篤皇帝虎年(1314) 聖旨(3) | 碑文 |
| 14. 普顔篤皇帝虎年(1314) 聖旨(4) | 碑文 |
| 15. 普顔篤皇帝南華寺聖旨(1) | 原文 |
| 16. 普顔篤皇帝南華寺聖旨(2) | 原文 |
| 17. 普顔篤皇帝馬年(1318) 聖旨 | () 碑文 |

* 上は欠落が激しいけれども何とか と判断

- | | |
|----------------------------------|----|
| 18. 答吉皇太后猴年(1320) 懿旨 | 原文 |
| 19. 答吉皇太后鶏年(1321) 懿旨 | 碑文 |
| 20. 帝師公哥羅古羅思監蔵班蔵ト
鶏年(1321) 法旨 | 碑文 |
| 21. 格堅皇帝猪年(1323) 聖旨 | 原文 |
| 22. 妥懽帖睦寧皇帝猪年(1335) 聖旨 | 碑文 |

23. 妥懽帖睦寧皇帝鼠年（1336）聖旨	碑文
* 上は一部不鮮明であるけれども と判断	
24. 妥懽帖睦寧皇帝成都聖旨	碑文
25. 妥懽帖睦寧皇帝兔年（1351）聖旨	碑文
26. 妥懽帖睦寧皇帝猴年（1368）聖旨	原文

* 上記一覧表のパスパ文字資料の出所（下記以外は照那斯図 1991 を利用）

- 1 . Poppe,N.1957,*The Mongolian Monuments in Hp'ags-pa Script*,Second Edition translated and edited by J.R.Krueger,Wiesbaden。図版 1。
- 10 . 前掲中村 淳・松川 節 1993。図版 7。
- 13 . Prince R.N.Bonaparte 1895, *Documents de l'époque mongole des ^e et ^e siècles. Inscriptions en six langues de la porte de Kiu-yong Koan,près Pékin : lettres, s'èles et monnaies en écritures ouïgoure et 'Phags-pa dont les originaux ou les estampages existent en France* (Paris,1895)。図版 -3。
- 17 . ED.Chavannes 1908,Inscriptions et pièces de chancellerie chinoises de l'époque mongole. *T'oung Pao*, (1908),pp.297-428+30pls。図版 25。
- 19 . Poppe,N.1957。図版 9。
- 20 . 『北京図書館蔵中国歴代石刻拓本彙編 049』中州古籍出版社、1990 年。P.108。
- 22 . 杉山正明 1990,「元代蒙漢合璧命令文の研究（二）」『内陸アジア言語の研究』。図版 1。
- 23 . 『中国民族古文字図録』中国社会科学出版社、1990 年。p.313。

五

上の一覧表より 26 種のパスパ文字資料について次のことが言える。

ア．聖旨には ・ ・ ・ 型があるけれども、懿旨・令旨・法旨には 型しか認められない。

イ．聖旨の碑文には ・ ・ ・ 型があるけれども、原文には ・ ・ () 型しかなく、 型は認められない。

なお、原文の ・ () 型は 5 例あり、そのうち 型は 4 例、 型か 型か区別が困難なもの 1 例となっている。

ウ．妥懽帖睦寧皇帝の五種の碑文には ・ 型があるけれども、 ・ 型は認められない。

これより、懿旨・令旨・法旨にみられる分ち書きのない 型の書法は、聖旨にみられる分ち書きのある ・ ・ 型の書法より格下の書法と考えると良い。もっとも、ややこしいことに、聖旨にも 型があり両者は区別されない場合もある（アより）。なぜ区別されない場合があるのか、聖旨の中に認められる 型には何らかの事情があると考えたい。現存する資料には石に刻された碑文と紙に書かれたままの原文があるけれども、原文をみると 型は認められない。現在目にすることのできる原文は僅かで、いささか心もとないが、これにより推断するならば、あるいは聖旨の原文において ・ 型で書かれていたものが、碑刻にあたって 型として刻されたという事であるかも知れない。

碑文の 型も同様であって、原文には 型であるか 型であるか判断し難いものが 1 例あるのみで他は全て 型となっている。これより判断し、原文では 型を意図して書かれていたものが、碑刻に当たって 型として刻されたとと考えるとよいのではなからうか（イより）。

以上を要するに、聖旨原文には 型（3行目のみ分ち書き）と 型（1、2、3行共に完全な分ち書き）があり、懿旨・令旨・法旨に見られるような 型（分ち書きがない）とは区別があった。しかしながら、聖旨の碑刻にあたって、 ・ 型が不完全に実現される場合があった。この不完全なものを先に 型および 型と称したが、もとより、このようなものに習慣化された型はなく、さまざまな程度の不完全さがあったものと推察される。

問題は 型と 型である。これらがどの様に使い分けられたのか、それとも使い分けはなかったのか、今のところ明らかではないけれども、どうやら妥懽帖睦寧皇帝の時代は 型が中心であったとみてよさそうだ（ウより）。なお、このパスパ文字モンゴル語聖旨の分ち書きの ・ 型であるが、ウイグル文字モンゴル語の定型句の分ち書き（パスパ文字資料の 型に相当する）を参考として成立したのものと考えると大過ないであろう。

ところで、上で確認したような聖旨の分ち書きは何故なされたのであろうか。その理由として、ひとつには書き出し部分の外観を整えるためであろう。いまひとつは皇帝の權威を際立たせるための処置でもあろう。しかしながら、この分ち書きが、意味の切れ目に対応していることもまた事実である。パスパ文字は通常一音節ごとに一まとめにするされ、意味の切れ目は示されることはない。これはパスパ文字の母体であるチベット文字の習慣に従ったためである。このような表記法は、単音節の形態素が多いチベット語や漢語などをするすばあいには大きな障害とはならないけれども、多音節語が主体となるモンゴル語やトルコ語などをするすばあい不便の上ないものとなる。この点、語や形態素が連書されるウイグル文字の文とは大いに異なる。初頭定型句に見られる分ち書きの根底には、意味のまとまりを明示したいというモンゴル語の使い手たちの欲求があり、それが知らず表出したものではなからうか。